



2021年6月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月6日

上場会社名 株式会社湖池屋
 コード番号 2226 URL <https://koike-ya.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 小池 孝
 (氏名) 藤巻 修道
 TEL 03-3979-2116

(百万円未満切捨て)

1. 2021年6月期第1四半期の連結業績(2020年7月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第1四半期	8,923	12.2	363		380		229	
2020年6月期第1四半期	7,952	2.9	26		1		48	

(注) 包括利益 2021年6月期第1四半期 272百万円 (%) 2020年6月期第1四半期 69百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第1四半期	43.03	
2020年6月期第1四半期	9.02	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年6月期第1四半期	22,715	12,725	55.4
2020年6月期	22,868	12,693	54.9

(参考) 自己資本 2021年6月期第1四半期 12,576百万円 2020年6月期 12,565百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期		0.00		45.00	45.00
2021年6月期					
2021年6月期(予想)		0.00		45.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年6月期の連結業績予想(2020年7月1日～2021年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	38,500	2.0	1,050	3.7	1,050	6.7	650	0.9	121.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 有 |
| 会計上の見積りの変更 | : 有 |
| 修正再表示 | : 無 |

(注)詳細は、添付資料P.7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年6月期1Q	5,335,000 株	2020年6月期	5,335,000 株
期末自己株式数	2021年6月期1Q	873 株	2020年6月期	873 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年6月期1Q	5,334,127 株	2020年6月期1Q	5,334,157 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間は、国内においては高付加価値商品戦略が着実に結果として現れ、新型コロナウイルスの影響による特需も相まって売上が好調に推移し、原価改善が奏功し収益もよい結果となりました。海外においても、概ね計画通りに推移しております。業績は次のとおりです。

売上高は、8,923百万円（前年同期比12.2%増）となりました。利益につきましては、営業利益363百万円（前年同期は営業損失26百万円）、経常利益380百万円（前年同期は経常利益1百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益229百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失48百万円）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

<国内>

2021年6月期は、引き続き高付加価値商品の売上拡大を目指すとともに、「Withコロナ」時代のニーズにあわせた商品展開、サプライチェーンマネジメント体制の抜本的見直しによる物流体制再構築、の3つをテーマに据え、事業展開を進めています。

当社において、第1四半期の利益改善は長年の課題でしたが、当期は新型コロナウイルスの影響による特需もあり好調に売上が推移し、盆休みの前後で売上に一服感があったものの、例年と比較して大きな利益改善となりました。なお、新型コロナウイルス感染者が一部に出してしまったものの拡大には至らず、防止対策として在宅勤務導入を含む各種感染予防策は依然として継続しております。食品メーカーとしての安定供給責務を果たすべく、「Afterコロナ」を見据えて柔軟な働き方を実現できる制度整備にも取り組んでいます。

営業活動においては、今一度商談のあり方を見直し、戦略的な提案活動を実施したことで、取扱商品の着実な拡大に成功しています。また、売上に占める高付加価値商品群の構成比は引き続き増加しており、利益の改善に一定の効果が現れています。

商品戦略においては、「湖池屋プライドポテト」における、有名アニメーションとのコラボレーション商品発売や、「じゃがいも心地」の新たなTVコマーシャル投入等によって、高付加価値商品群の更なる認知率向上に向けた施策を、絶え間なく打ち出しました。

また、「Withコロナ」時代のニーズへ応えるべく、以前より改良・販売を重ねてきました、「罪なきからあげ」、「HASHED POTATO」、「キャラメル×スコーン」を、「個食需要」や「巣ごもり需要」といったトレンドに加えて、新たな食シーン提案に向けた「SMART PACK」として提案販売を実施しています。

以上のとおり、堅調な売上推移と各種施策が奏功した結果、国内の売上高は8,123百万円（前年同期比13.1%増）となり、セグメント利益は405百万円（前年同期はセグメント利益21百万円）となりました。

<海外>

台湾事業では、2020年の台湾産馬鈴薯不作の悪影響を売上、利益の両面で受けながらも、収益性の高いコーンや小麦原料の商品に加え、ポテトチップスでは「じゃがいも心地」を拡販し、売上、利益ともほぼ計画通りの進捗となりました。

ベトナム事業では、新型コロナウイルスの影響により営業活動の強い制約を受けるなど売上が計画に満たなかったものの、営業構造改革による営業効率改善や製造コスト削減を推し進めており、収益は改善しております。

タイ事業においても、新型コロナウイルスの影響によるスナック市場低迷の影響を受け売上は苦戦しましたが、販売促進費等抑制による経費コントロールの結果、計画通りの利益を確保しています。

以上により、海外の売上高は799百万円（前年同期比4.2%増）となり、セグメント損失は8百万円（前年同期はセグメント損失22百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べ152百万円減少し、22,715百万円となりました。主な要因は、原材料及び貯蔵品の増加（666百万円）の一方、受取手形及び売掛金が減少（788百万円）したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ185百万円減少し、9,989百万円となりました。主な要因は、買掛金の増加（271百万円）の一方、未払法人税等の減少（306百万円）及び未払金の減少（84百万円）によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ32百万円増加し、12,725百万円となり、自己資本比率は55.4%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年8月7日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,925	4,036
受取手形及び売掛金	6,232	5,443
商品及び製品	940	963
仕掛品	2	13
原材料及び貯蔵品	247	913
その他	498	265
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	11,842	11,634
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,206	2,174
機械装置及び運搬具(純額)	3,209	3,101
土地	1,622	1,622
その他(純額)	1,279	1,539
有形固定資産合計	8,317	8,438
無形固定資産		
その他	451	446
無形固定資産合計	451	446
投資その他の資産		
その他	2,256	2,195
投資その他の資産合計	2,256	2,195
固定資産合計	11,025	11,080
資産合計	22,868	22,715
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,183	3,454
未払金	3,424	3,340
未払法人税等	427	121
賞与引当金	4	200
役員賞与引当金	—	5
その他	618	333
流動負債合計	7,658	7,456
固定負債		
退職給付に係る負債	1,802	1,828
その他	713	704
固定負債合計	2,515	2,533
負債合計	10,174	9,989

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,269	2,269
資本剰余金	2,153	2,153
利益剰余金	8,318	8,307
自己株式	△2	△2
株主資本合計	12,739	12,728
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18	12
為替換算調整勘定	△101	△78
退職給付に係る調整累計額	△91	△86
その他の包括利益累計額合計	△174	△152
非支配株主持分	128	149
純資産合計	12,693	12,725
負債純資産合計	22,868	22,715

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
売上高	7,952	8,923
売上原価	5,080	5,406
売上総利益	2,872	3,516
販売費及び一般管理費	2,898	3,152
営業利益又は営業損失(△)	△26	363
営業外収益		
受取利息	3	3
持分法による投資利益	0	2
投資有価証券売却益	47	16
その他	3	4
営業外収益合計	54	26
営業外費用		
支払利息	0	1
投資有価証券売却損	18	—
為替差損	1	3
支払手数料	4	3
その他	1	1
営業外費用合計	26	9
経常利益	1	380
税金等調整前四半期純利益	1	380
法人税、住民税及び事業税	20	79
法人税等調整額	7	52
法人税等合計	27	131
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△26	248
非支配株主に帰属する四半期純利益	21	18
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△48	229

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△26	248
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9	△5
為替換算調整勘定	△39	24
退職給付に係る調整額	5	5
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	0
その他の包括利益合計	△43	23
四半期包括利益	△69	272
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△87	250
非支配株主に係る四半期包括利益	17	21

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

（有形固定資産の減価償却方法の変更）

当社の有形固定資産（リース資産及び使用権資産を除く）の減価償却方法につきましては、従来主として定率法を採用しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

高付加価値商品及び長期安定的な収益獲得を見込める商品を中心とした製品戦略のもと、大規模な設備投資の実行を契機として減価償却方法を再検討いたしました。その結果、設備は安定的に稼働しており、今後は減価償却費を耐用年数期間にわたり均等に費用配分することがより適切と判断し、定額法に変更したものであります。

この結果、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の減価償却費は44百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ44百万円増加しております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、スナック菓子の製造販売を中心に事業活動を展開し、「国内」、「海外」の2つを報告セグメントとしております。

「国内」は当社が、「海外」においては在外連結子会社が、それぞれ独立した経営単位で事業活動を展開しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,185	767	7,952	—	7,952
セグメント間の内部売上高又は振替高	39	—	39	△39	—
計	7,225	767	7,992	△39	7,952
セグメント利益又は損失 (△)	21	△22	△0	△25	△26

（注）1. セグメント利益又は損失（△）の調整額△25百万円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失（△）と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	海外	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,123	799	8,923	—	8,923
セグメント間の内部売上高又は振替高	44	—	44	△44	—
計	8,167	799	8,967	△44	8,923
セグメント利益又は損失(△)	405	△8	397	△33	363

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△33百万円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に記載のとおり、当社の有形固定資産(リース資産及び使用権資産を除く)の減価償却方法につきましては、従来主として定率法を採用していましたが、当第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この結果、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の「国内」のセグメント利益が44百万円増加しております。